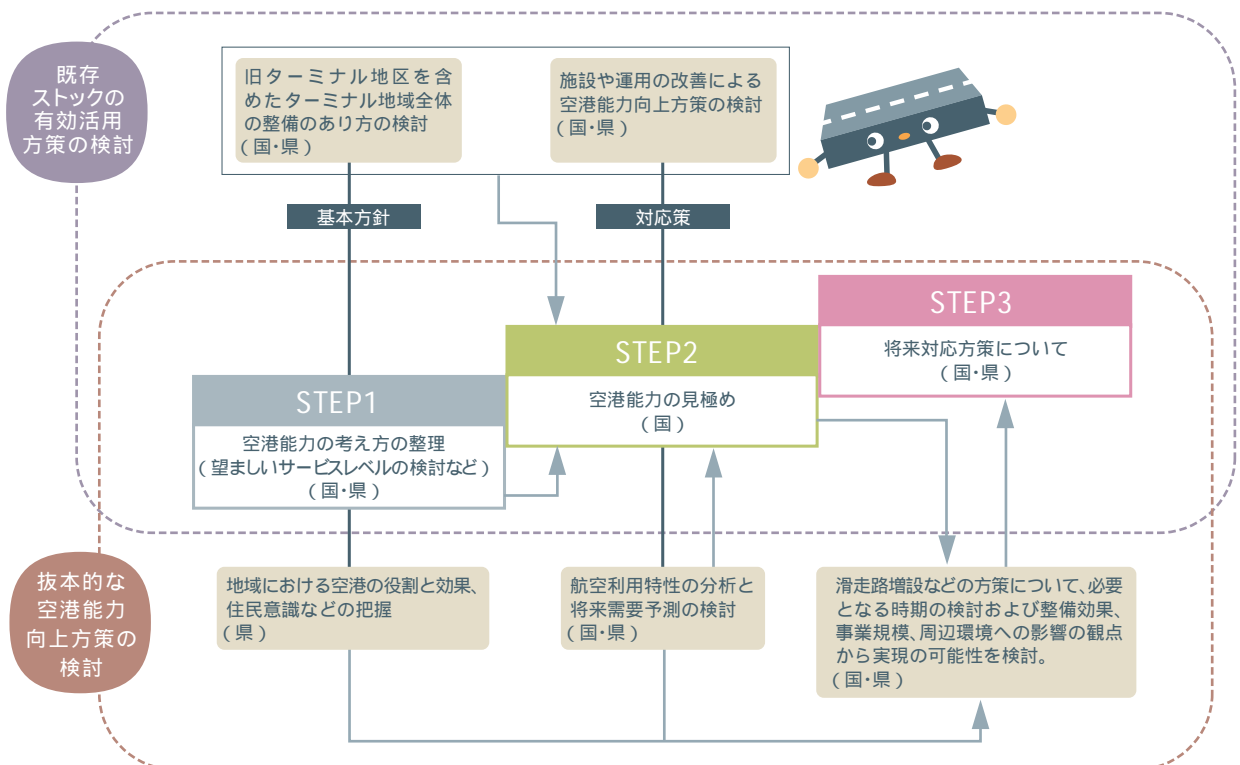


① 那覇空港の総合的な調査及びPI導入の経緯

- *平成14年12月、航空政策のあり方を審議する交通政策審議会航空分科会答申において、「那覇空港は、将来的に需給が逼迫することが予想されることから、幅広い合意形成を図りつつ、国と地域が連携して、『総合的な調査』を進める必要がある」とされました。この答申を受けて、国と沖縄県では、那覇空港調査連絡調整会議¹を設置し、平成15年度から那覇空港の今後の整備のあり方について「那覇空港の総合的な調査」を実施してきました。
- *また、空港整備は、公共事業全般に求められている透明性の確保や、説明責任の一層の遂行の観点から、その整備プロセスを見直す必要があるのではないかと問われるようになりました。このような中、平成14年12月の同答申において、一般空港の滑走路新設・延長事業に関し、透明性向上の観点から、構想・計画段階におけるパブリック・インボルブメント²(PI)等の手続きをルール化する必要性が示されたことから、総合的な調査においては、PIの手法を取り入れ、皆様からご意見をいただきながら進めてきました。

那覇空港の総合的な調査のフローおよびPIのステップ



用語の解説 1

那覇空港調査連絡調整会議

構成メンバー：内閣府沖縄総合事務局 / 国土交通省大阪航空局 / 沖縄県



用語の解説 2

パブリック・インボルブメント(PI)とは？

一般的には、政策決定や公共事業の計画策定において、国民や地域住民の方が意見を表明できるような場を設け、寄せられた意見を計画に反映するものです。

【公衆(Public)を巻き込む(Involvement)】

2 PIの進め方と各ステップで実施した情報提供・意見収集の内容

* PIは、「那覇空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方」に基づき、PIの具体的なスケジュール等を示した「那覇空港調査PI実施計画」を策定し、これに基づき3段階に分けて実施しました。

* 平成17年度は、那覇空港に関する課題や将来像等についてPIの第一段階としてステップ1を、平成18年度は、那覇空港の将来の需要予測や空港能力の見極め等についてステップ2を、平成19年度は滑走路増設を含む将来対応方策等についてステップ3を実施しました。

なお、PIの実施にあたっては透明性・公正性を確保するため、第三者機関である「那覇空港調査PI評価委員会」を設置して、PIの実施計画や活動、実施結果について、評価・助言をいただきながら進めました。

* 情報提供及び意見収集終了後は、各ステップにおいて、寄せられたご意見への対応をとりまとめて公表するとともに、あらかじめ設定した評価項目に沿って、PI活動を評価しました。評価の結果、県民等との情報の共有化を図るという目標が達成されたと判断し、平成17年11月16日にステップ1を、平成18年12月4日にステップ2を、平成19年12月19日にステップ3を終了しました。

* なお、ステップ2までの調査結果を踏まえ、平成19年6月の交通政策審議会航空分科会答申において、那覇空港について以下のことが示されました。



「今後、将来の対応策として現空港の有効活用方策と複数の滑走路増設案、並びにそれらの評価について提示し、意見等を取りまとめる。これらの調査結果を踏まえ、抜本的な空港能力向上のための施設整備を含め、将来需要に適切に対応するための方策を講じる必要がある。」

